■ 2022.8.25　No248

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E-mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

あれから77年…
“原爆の日”に反核の思い新たに…！

８月６日広島市…、９日長崎市…原爆が投下されてから 77 年になる。爆風と炎にさらされ５ヶ月間で 20 万人以上が亡くなり、今も健康被害に苦しんでいる！その内実は呆然とすることばかりである。

中学生8,000人‥その親、兄姉の学友の悔しさは！

右資料は原爆爆発の実態である。

更に「原爆で奪われた中学生 8,000 人の人生と死の記録」（資料１）がテレビで流された。

白髪の女性の前に広げられた小さな制服。

「ここに手があって、ここに顔があったの…」女性は袖口と襟を指すと声を押し殺して泣いた。制服は死んだ妹むっちゃんのものだった。あの日、空襲の延焼を防ぐ「建物疎開」の作業のため、広島市市街地に動員された 8,000 人の中学生がその現場にいた。（資料２）

広島…原爆投下　地獄をもたらしたもの（注１）

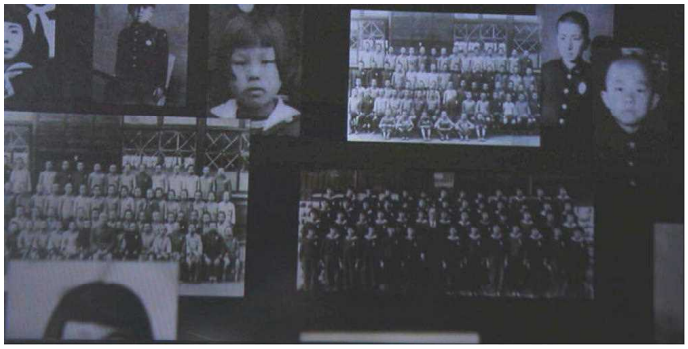
- 原子爆弾は米軍用機エノラ・ゲイから投下43秒後…
- 地上600㍍の上空で炸裂し１，000，000℃を超える火柱となる。
- １秒後、その大きさは半径200㍍を超える。
- 爆心地周辺を3，000～4，000℃で焼き尽くした。
- これが1945年８月６日（月）８時15分広島の身に起きたこと。
- 種も人種も年齢も差別なく、多くの命が生きたまま焼かれた。
- 77年後の今も、放射線傷害を与え続けている。
- この核兵器で、誰が何を抑制するのか？

（資料１）　妹むっちゃんのものだと声を押し殺して泣いた

命令した陸軍の責任はないのか？

陸軍の強い要請で動員された 6,000 人が命を落としている。肉親や学友の証言から当日の惨状と生き残った者の計り知れない悔しさや葛藤がひしひしと伝わってきた。「お国のためと懸命に働くむっちゃんたちの頭上に原爆は炸裂した。命令した軍の責任はなしである。「人間とはなんと愚かなのか？」

ウクライナでは核兵器のリスクが高まり、国内でも「核共有」議論すべきだとの声が（故）安倍元総理から上がっていた！



（資料２）　中学生といえば 12 歳から 15 歳…私たちからいえば‥いたいけな子どもである 8,000 人‥驚愕するしかない！

福島県内堀知事と２町長
「事前了解」は工事を促すためなのか？改めて抗議する！

８月２日、内堀知事と第一原発が立地する大熊の吉田町長、双葉の伊沢町長は東電と締結している廃炉安全確保協定に基づく汚染水放出設備工事の「事前了解」を了承した。（資料３）

原発の過酷事故は東電、国がもたらしたもの！

東電と国の対策は余りに愚か過ぎる！

（資料３）何のための事前了解なのか？

この「汚染水放出設備工事の事前了解は…何故するのか？」である。これは明らかに越権行為である。2015 年８月 11 日、福島県漁連の「サブドレン水等排水に対する要望書」では「４、…漁業者、国民の理解を得られない海洋放出は絶対に行わない事」と求めたのに対し、政府と東電は「…多核種除去設備で処理した水は発電所敷地のタンクに貯蔵いたします」と明確に答えている。漁業者、国民は汚染水放出は全く認めていない！

それを３者（県・両町）が放出工事を「事前了解」したのは、工事を促すためなのか？

改めて抗議をするものである！

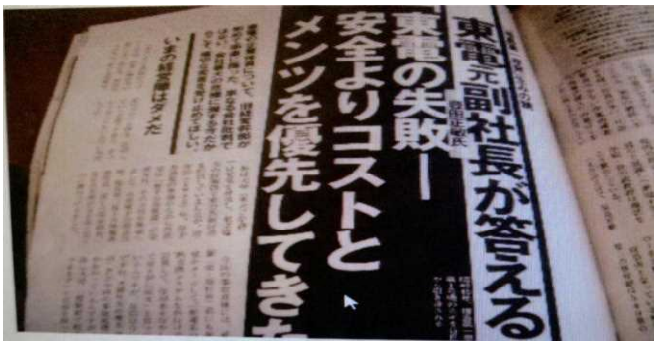
（資料４） 海岸線を 130 ㍍まで埋め立て海側の窪地に建てたようなもの

第一原発を福島県が誘致した 60 年前…それを紐解けば「原発過酷事故及び汚染水問題」は、全て東電と国の責任…罪（つみ）そのものである。

①発電所敷地 35 ㍍の台地を７㍍まで掘り下げた罪。

東電副社長、豊田正敏氏が「原子力発電歴史と展望」の中で、次のように記している。56 年前の 1966 年（Ｓ 41）12 月に工事を着工している。その中で（資料４）のように「…発電所敷地は標高 35m の台地であったので、標高 10m まで掘削整地し、さらに岩盤のある標高７ m 程度のところに原子炉建屋基礎を置くことにした。タービン建屋は海水冷却管路の引き入れを考慮して、原子炉建屋の海側に置くこととし、掘削土で海を埋め立てることにより掘削土量の節約を図った」とある。

35 ㍍台地を削り、標高７ m 程度のところに原子炉建屋基礎を置くことにしたのだ。しかも建屋は海側の「窪地状」に等しい部分に建てたのである。津波の来襲は全く予想だにしなかった設計施工であったことになる。



（資料５） 「安全よりコスト、メンツ優先‥」とある

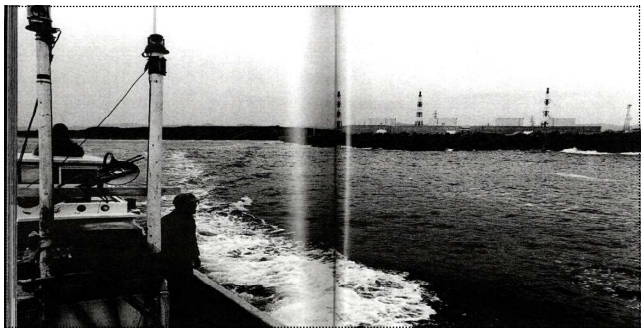
（資料５）のように同副社長は生前、メディアの取材に応じ「**東電の失敗…安全よりコストとメンツを優先してきた**」と語っている。

それればかりではない！第一原発の敷地は幾筋もの河川が流れ、特に１～４号機の原子炉建屋には３本の川が流れる場所だったのだ。

請戸漁協の漁師、桜井氏は生前「原発敷地の中

腹からは滝のように水が落ちる場所だった」と語っていたことを思い出す。**（資料６）**

②日本海溝寄りの領域では有史以来、巨大地震津波の常習地帯であったことを無視し原発を建て、2011 巨大地震で防潮堤、水密化を怠ったり原発過酷事故をもたらした罪。

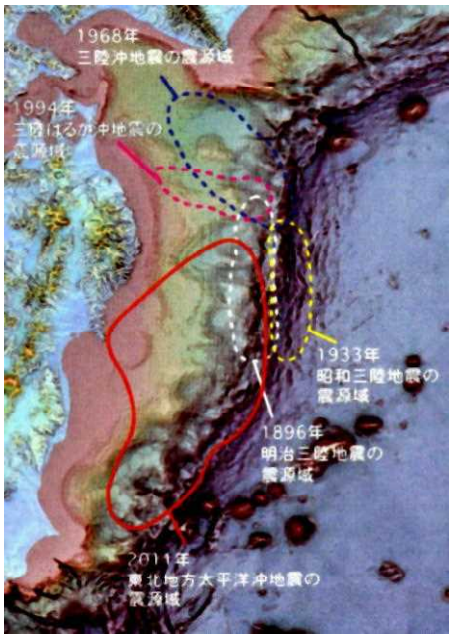


（資料６）　第一原発を凝視する原発桜井氏 1979 年 5 月

（資料７）を見て欲しい！

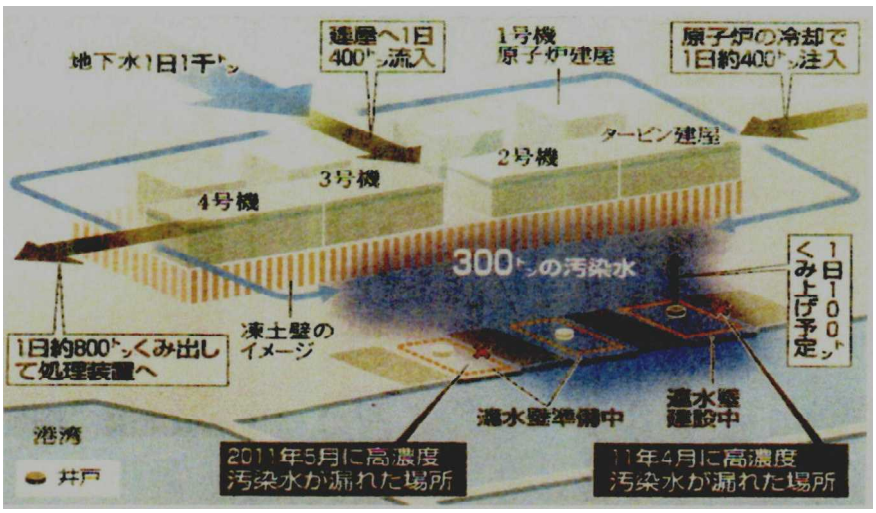
1896 年の明治三陸から始まる４つの巨大地震をあらわしたものである。これらの歴史的経過を元に作られた「長期評価」は現実に起き、先般の株主代表訴訟判決では「事業者は過酷事故を万が一にも防止すべき社会的、公益的義務がある」としたものである。

③「後手に廻り過ぎた汚染水処理」この言葉が示すようにメルトダウン対策や使用済み燃料プールへ大量の水が投入されていた。ところが 2011 年３月 24 日３号機原子炉建屋の地下で社員３人が放射線被ばくで皮膚が損傷し高濃度の汚染水が建屋内に広がっていることが分かった。(注 2)汚染水対策が遅れ、まともな対策を取れなかった罪。



（資料７）赤色曲線は 3.11 巨大地震

（資料８）は政府の第 31 回原子力災害対策本部「地下水の流れに対する試算」（2013.8.7）で地下水１日／ 1,000 ㌧敷地に流れ込み、1 ～ 4 号機に 1 日／ 400 ㌧入り、原子炉の冷却に 1 日／ 400 ㌧注入する。その結果１日／ 800 ㌧をタンクに保管している。更に１日／ 300 ㌧の高濃度汚染水が漏れ出していた。その結果 2011 年４月と翌月５月にも同様の事態が起きて中国、韓国からも激しい批判に晒されていたのが、この図である。



（資料８）　東電と国の対策は 2011 から２年後から始まった…遅すぎる！

そのため**「汚染水を取り除く、近づけない、漏らさない」の３つの約束**をして、更に原子炉建屋に入る前の水を**「地下水バイパス」「サブドレン」**の井戸を設けて汲み上げ対策を取っていたのだ。

これで分かるように政府と東電は汚染水によって日本や世界各国から激しい批判を受け、何とか２つの対策**（地下水バイパス、サブドレン放出）**により、難局を回避したいというのがせっぱ詰まった思惑だった。

その結果、前述したように県漁業協同組合連合会が苦渋の決断をして「要望書」を出し、東電と国（経済産業省）は「…いかなる処分も行わない」と約束して、2014 年５月 21 日に「地下水バイパス放出開始」翌年９月 14 日に「サブドレン放出開始」したのだ。

改めて言うと「地下水バイパス 74 万 m^3」「サブドレン 132 万 m^3」も建屋に入る前の水でトリチウムは極めて少ないものであったことを付け加えておきたい。汚染水流入の切り札とされた「陸側遮水壁」は破綻そのものであった。このように第一原発の建設当時から始まり、津波対策、その結果生じた汚染水対策など、あまりに愚かすぎる対策であったのだ。

UNSCEAR2020/2021「福島原子力発電所事故による放射能影響に関する報告書」の罪

千葉親子

この報告書は、原発事故後から 2019 年までに公表された、査読付き論文をまとめ昨年 3 月に公開された。2013 年報告書に比較し、放射性ヨウ素濃度の過小評価が明らかになった。

UNSCEAR（原子放射線の影響に関する国連科学委員会）は、1955 年国連総会で設立され 31 の加盟国で構成されている。米ソ核開発の最中の発足であった。ビキニ環礁水爆被災についての過小評価につながる活動を行っていたアメリカの原子力委員会の影響力をうけての組織となっている。

（資料9）県庁にて UNSCEAR 事務局長に直訴

7 月 19 日～ 22 日 UNSCEAR は、ギリアン・ハース前議長ら 3 人が来日し、20 日内堀福島県知事を表敬訪問し原発事故と甲状腺がんは「被ばく線量は少なく、がんなどの健康被害が増加する可能性は低い」とした「報告書」を手渡した。

（資料10）科学的とは言いがたいUNSCEAR報告書

小児甲状腺がん患者・家族をサポートしている「あじさいの会」は、20 日県庁を訪れていたボリスラバ・メットカーフ事務局長に「福島の小児甲状腺がん発症及び患者の現状を直視してください」と提言書を渡し、報告書の訂正を求めた。科学的知見を振りかざす国や県の態度は、今年 2 月、5 人の元首相経験者（既報 242 号）が、気候変動対策を考える「欧州委員会」宛に送った書簡の中に「多くの子どもたちが甲状腺がんに苦しみ」と書いたことに対し内堀知事は即座に「遺憾である」と抗議したことに表れている。

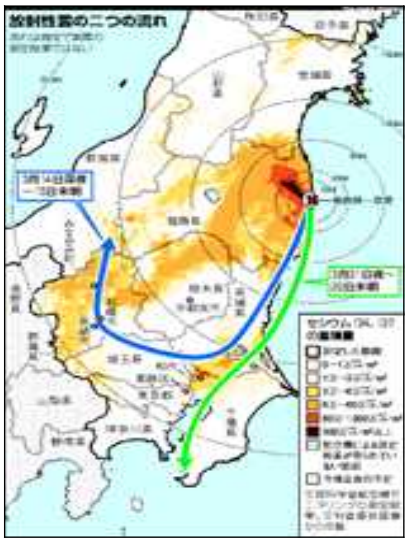
内堀知事にとって、UNSCEAR の報告は原発事故の被害を矮小化する強い後ろ盾となっているとみる。被ばくによる不安を抱える人々にとり、知事の発言は、まさに自分たちの存在が見捨てられたかのような絶望を感じたと憤る。

21 日は、いわき市で市民と科学者との意見交換会があった。UNSCEAR は「世界中の放射線安全性の礎として、広く認識されている」と自ら評価しているが、高エネルギー加速器研究機構の黒川眞一名誉教授は「間違ったデータやグラフが複数ある」「論文引用の誤りで科学的な基礎知識に欠ける」「科学的な報告とは程遠い」とデタラメ報告書の撤回を求めた。医学博士で 3・11 こども基金代表理事の崎山比佐子氏は「50 年以上も前の日本の食生活のデータで書かれた論文で、日本の食生活は海産物を多く食べるため被曝しても放射性ヨウ素の摂取は少ないと世界平均の半分にしている」「現在の日本人の食生活は欧米化しヨウ素摂取は世界平均と変わらない」と明らかな過小評価を指摘した。

福島原発事故は東日本の広い国土を放射能で汚染**（資料 11）**し、今も山林は除染されないまま、いまだに帰還困難区域が存在し、何万人もの県民が避難生活を強いられ、原子力緊急事態宣言が発令されたままである。その事を認めず、被曝への不安を口封じて、事実を語ることに対して風評被害と非難するように仕向けているのが「国連科学委員会」（UNSCEAR）の報告を基にした今の日本であり福島県ではないか。

過小評価の始まりは事故直後から「直ちに人体に影響は無い」と政府は繰り返し、放射腺健康リスクアドバイザーに就いた長崎県立医大の山下俊一氏の「ニコニコしている人には放射能は来ない」発言など「安全神話」が喧伝され続けた。

直訴に同行した 20 代女性患者は「権力のある人 の言うことがすべて正しいと言う事になってしまう。初期被ばくの線量データが充分でない中、報告書 を元に判断されることは悲しく苦しい」「日本国内だけでなく世界に伝えていく行動はやめてほしい」と、語った。



（資料11）放射能が広く国土を汚染した

今福島県での小児甲状腺がん又は疑いの患者は第 19 回甲状腺検査評価部会の公表では 274 名（1 名は良性）、県の把握対象になっていない患者が 43 名、全体で患者は 316 名となっている。

若者 6 人が起こした裁判について「報告書が正しいのであれば 6 人の若者の主張は間違っていると言う事か？」と質問した記者に「我々はあくまでも科学的・学術的な視点に立って判断」「個々のケースに対応すべきは政府や裁判所だ」「私たちは科学的な情報の提供者だ」。

内堀知事は、報告書に対し「科学的な知見から今回のようにわかりやすく公表されることは意義がある。今後も可能な範囲でお力添えを頂きたい」と受け取った。

無責任な報告書の結論は、ますます「患者や家族への差別や偏見を助長しかねない」国県にとって、報告は原発事故の被害を矮小化する強い後ろ盾・お墨付きとなっている。

原子放射線の影響に関する国連科学委員　殿　　2022（令和 4）年 7 月 20 日

甲状腺がん支援グループあじさいの会
代表　　牛山　元美
事務局長　千葉　親子

国連科学委員会（UNSCEAR）パブリックミーティングの開催にあたり
―福島の小児甲状腺がん発症及び患者の現状に直視して頂く事を願い提言いたしますー

今回、2020 年 2021 年報告書を読ませていただきました。

福島県の乳幼児の事故一年目の甲状腺平均吸収線量は 2013 年報告にくらべ大幅に減少させられており、その理由として、①日本の建物はコンクリートで放射能の遮蔽があった。②日本人は昆布など海産物をたくさん摂取しているから甲状腺に放射性ヨウ素の取り込みは少ない。③日本は出荷制限が早かった、などがあげられています。

また、原発事故による放射線の健康影響として、甲状腺がんを含めたあらゆるがんは、子どもたちから高齢者までの全ての年齢層について増えていないし、今後も増えない。そしてあらゆる遺伝子影響、つまり次世代への影響も起きていないし、今後も起きないと結論されました。現場、現状とはかけ離れた理由に驚きました。　　－－－－－－－中略－－－－－－－

「国連科学委員会」（UNSCEAR）の報告によって甲状腺がん患者やご家族の不安や孤独感、絶望感が高まり、彼らに対する差別や偏見がより強まる可能性を深く理解され、2020 年 2021 年報告書を再検討されることを心より強く要望いたします。

岩間政金さんの御逝去を悼む

7 月末、岩間政金さんの娘さんから電話があった。7 月初めにお亡くなりになったとの知らせだった。岩間さんとは、信越放送の取材で出合った。葛尾村に住む岩間さんを訪ねた時「あんな辛い事は無かった、よく生きて帰ったもんだ」と国策に翻弄されたその人生の壮絶さは、脱原発情報 233 号で「原発事故と故郷の山」侵略戦争の惨禍、と題し投稿させて頂いた。97 歳というお歳を感じさせない足取りと「お幾つですか」と尋ねる度に歳が若くなるユーモアあふれる人物であった。9 月に長野の「満蒙開拓平和祈念館」に視察に行く予定を立てていた。（コロナ禍で延期）帰ったら岩間さんに会いに行きたいと思っていた。娘さんの「好きなものを食べ、飲み、穏やかに逝きました」の言葉の中に、多くの困難を克服しながら 97 年の生きた証の全てがその終末であったかと逝去の報に接しながらも、ひとり心穏やかな気持ちになった。（石丸）

放射性物質トリチウム
海洋投棄は海流があり 地球規模に広がる！

いわき市で最も交通量の多い町（いわき市平塩）の中で（資料12～13）の「原発汚染水の海洋投棄反対」の看板を掲げる人物がいる。その人は佐藤孝久さんである。お盆の 14 日に話を伺ってみた。

トリチウムは放射性物質…それを海洋放出とは

・**質問～**どんな動機でいつから看板を上げたのですか、目立ちますね。

・**佐藤さん～**去年 2021 年４月に誕生日を記念して上げました。その前から「何とかしなければ！」と常々考えてきました。看板は２ヶ月程度で色が剥げてしまうので油性ペイントで塗っています。先日「伺う」と聞いたので、昨日塗り直しました。

（資料12）　「原発汚染水の海洋投棄反対」の前で‥

（資料13）　佐藤孝久さん 79歳

・**質問～**（資料14）のように、いわき市で最も交通量が多く、しかも浜街道で北上すると第一原発に向かう道筋です。何とかしなければ…と思ったのは何故ですか？

・**佐藤さん～**トリチウムは放射性物資…そのものです。本来であれば、閉じ込めて置かなければならないのに、それを海に放出するとは、とんでもないことです。

（資料14）　いわき市平塩の町の様子

・**質問～**その通りですね！その他には？

・**佐藤さん～**原子力規制委員会は先月 22 日に海洋放出を認可しました。更に、今月２日には内堀知事が大熊・双葉町長と共に「設備工事・事前了解」を出しました。その新聞記事を見て**「何と仰々しいんだろう！」**と思いました。東電の社長と言えば、旧経営陣が一審判決で 13 兆円もの賠償を命じられた会社です。県民は「許せない！」と思っている人が多いでしょう。その社長を立派な部屋に招き入れ、仰々しく振る舞う…この様子を見て 12 年前のプルサーマル導入を思い出しました。内堀知事の国家政策を主導する時の手法です。

東電社長を迎え入れた…仰々しさは何なのか？

当時、地震随伴事象である津波対策の「防潮堤」を全く要求せず地震・津波で大変な惨禍を受けました。

福島は今も大きな重荷を背負っています。また海は複雑な海流があり福島沖に留まることはなく地球的規模で汚染は広がります。[注 3] とんでもないことです。

・**質問～**ありがとうございました。

出典　文献

・（資料１～２）ＮＨＫスペシャル原爆が奪った未来・（資料３）福島中央テレビ・（資料４）出所不明・（資料５）週刊ポスト 2011.11.23・（資料６）原発 1979 年～ 1995 年・樋口健二写真集・三一書房・（資料７）活火山活断層・赤色立体地図でみる・技術評論社・（資料８）2013.8.7 第 31 回原子力災害対策本部・（資料９）あじさいの会・（資料 10）UNSCEAR・（資料 11）朝日新聞 2011 年 10 月 24 日・（資料 12 ～ 13）編集部・（資料 14）google map

・（注 1）９条の会ヒロシマより・（注 2）国会事故調・汚染水海洋放出に至る経過・（注 3）講演「トリチウム汚染水問題」講師千葉親子さん